

# 日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

# 普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万6000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2022年2月21日

元気が出る  
みんなの  
取り組みを  
ご紹介

## 楽しく普及拡大

モニター登録をきっかけに、「ほいく誌」と出会い、学童保育の大切さと指導員の思いにふれる。

「ほいく誌」を手にとって、見て・読んで・感じてください。  
そこには新鮮な「出会い」があります。

長崎県連協では『日本の学童ほいく』のモニター制度が始まった当初から、県内の7つの連絡協議会・連合会から指導員と保護者のモニター約30人を登録しています。モニターの半数は保護者で、お母さんたちが仕事と家事と子育てで忙しいなかでも、記事に共感し投稿してくれています。感想を「読者のひろば」で見つけることは、私たちの楽しみの一つになっています。

「ほいく誌」を手にとると、「パツと目に留まったタイトル」や特集など、興味深い記事に毎号出会うことができます。思わずじっくり読んでしまう、「ほいく誌」にはそんな魅力があります。そしてこの本の魅力の一つが、記事の多くの書き手が指導員と保護者であること。ありのままの出来事や気持ちを飾らずに書かれており、共感します。

### ●新旧モニター会議で語られる学童保育への思い

長崎県連協では10年程前から、毎年3月に「ほいく誌」の新旧モニター会議を開催しています。旧モニターさんの投稿や共感した記事などの経験を交流をし、新モニターさんへのアドバイスを行っています（残念ながら、この2年間はコロナ禍で中止……）。モニター会議の中で、保護者の方が共通して話されることは「係として引き受けたのがきっかけでしたが、学童保育の大切さを知れてよかった。そして、どこの指導員さんも、誠実に子どもの育ちを受けとめて、学んだり反省したりを繰り返しながら、日々子どもたちと向きあっていることが、本誌を読むことでよくわかりました」ということです。これは指導員への大きな励ましにもなっています。

現在、コロナ禍で人と対面で交流できない日常が続いています。またSNSやネットなどによる情報が溢れていて飲み込まれそうな日常でもあります。だからこそ、文字と向きあい、ふと立ち止まることで自分の生活や子育て、人とのコミュニケーションを見つめ直し、確認する貴重な時間だと思えます。今こそ、「ほいく誌」を手にとって、見て読んで感じてください。間違いなく新鮮な「出会い」がそこにはあります。せっかくの「出会い」味あわなきや……もったいないもったいない……。

## 長崎県 の 取り組み



## 日本の学童ほいく 3月号

### 特集 学童保育での安心・ 安全な生活を考える

特集では、「子どもが学童保育で過ごす際の日常の安全」について、基本的なことをたしかめあいます。また、「防災訓練」「『新型コロナウイルス感染症』対策」についても、実際の取り組みから学びます。



# 日本の学童ほいく

みんなで読もう目標 3万6000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

# 普及拡大 ニュース

2022年2月21日

## 読者の声

### 滋賀県東近江市●保護者から

「～ができるようになったで」「きょうは、○○くんと、□□をして楽しかった」「こんなことあったで」……。学童保育にお迎えに行った帰り、いつも車内で子どもと会話をしています。小学校に入学した当初は、「学校帰り、お友達と約束をする機会がないのは、やっぱりさびしいだろうなあ」と思っていました。でも4月から学童保育でお世話になるようになって、放課後を同じように学童保育で過ごすお友達と楽しく遊ぶことができて、とてもありがたく思っています。本誌を読むと、「皆、同じようなことで悩んだりしている。自分だけじゃないんだ」といつも勇気づけていただいています。

2021年12月号の講座「学童保育の基本問題再考——言葉の理解をめぐる」のなかで増山均先生が、「子どもの遊びは、子どもたちがそのなかにおもしろさ・楽しさを見出して過ごす時間と行動のこと」と記されていました。私は知らぬ間に、子どもの気持ちを解放してあげてを忘れていました。気づかせてくださり、ありがとうございます。見守ること、もっと信じてあげてを心がけて、子育てしていきたいなと思いました。（『日本の学童ほいく』2022年3月号「読者のひろば」より）

### 山形県山形市●保護者から

2021年4月号の特集「ようこそ！ 出会い・広がれ・学童保育」に掲載された、名島加奈子さんの「学童保育で過ごす時間のなかで、親子の成長を感じて」を読みました。わが家では4月から一番下の娘も学童保育に入所し、姉と二人でお世話になっています。一番下の娘は、引っ込み思案で内弁慶な一面を見せることもあり、新しい生活のなか、人間関係を築いていけるか、心配です。私は、娘たちが生活する学童保育でなにか手伝えないかと思い、一番下の娘が入所すると同時に、保護者行事に関わる役員を引き受けました。そこで参考になることがないかという思いで本誌を読み、全国各地の学童保育に関わる人々が、同じような思いや悩みを抱えていることを強く感じました。昨今、「新型コロナウイルス感染症」の影響により、これまで行ってきた行事を思うように開催できず、悩ましい時間を強いられています。「人が集まる行事すべてが悪い」と考えるのではなく、部会に関わる方々と話しあいを重ねながら「できる機会・方法」を見つけ、学童保育に関わる人々が楽しく成長できる機会をつくりたいと考えています。

本誌を読んで感じた学童保育での出会いや交流のように、私自身、前向きなイメージを抱きながら、交流の機会を生みだしていきたいです。（『日本の学童ほいく』2022年2月号「読者のひろば」より）

私は指導員として思いがけず学童保育の世界に飛び込みました。前任者との引継ぎもないまま、子どもたちを前に、何をどうしていいのか悩む日々が続きました。子どもは私を試してくる、毎日、何かが起きる！ とにかく毎日がへとへとでした。仕事が終わりと、電車の中でほいく誌を開く、しかし、疲れきって眠ってしまい、読み進めなかったあのころが、今では懐かしく思えます。

学童保育ってなんだろう、なぜ6年生まで通うの、発達障害の子どもたちとどう過ごせばいいの……と悩むなかで、『日本の学童ほいく』にふれ、自分の学童保育の保育づくりのために、指導員の実践の記事には、赤線をいっぱい入れて何度も読み返しました。また、おやつを紹介や通信を読むのも楽しみで、たくさんいいところをいただきました。保護者の記事からは、働きながら子育てを始めたばかりの私にとって、子育ての悩みや思い、楽しみ、喜びなど生きる力にふれることで、勇気やヒントをいただきました。保護者の学童保育に対する思いも強く感じ、自分の学童保育も保護者や子どもにとって大事な場所にしたいと思いました。指導員になったころ、わが子のアトピーとの格闘や、障害のある子との学童保育の生活について原稿を執筆する機会があり、今思えば恥ずかしいのですが、書くことで私自身大変勉強になりました。学童保育の月刊専門誌として、指導員、保護者、子どもとでつくるのが、大切であるとあらためて思います。

私と「ほいく」誌

全国連協役員リレー執筆・  
今月は神奈川の木村美登里さん